

協会に事務局を置く団体

神奈川県消化器集団検診機関 一次検診連絡協議会

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃集団検診学会（現：日本消化器集団検診学会）関東甲信越地方会実施機関部会における、各県単位に「協議の場」を設置することの申合せにより発足し、満23年余を経過した。

発足以来、県内における老人保健法に基づく胃がんの住民検診を行なう一次検診実施機関の精度管理の向上、行政、医師会をはじめとする関係機関との連絡協調を図り、共通の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行い、胃がん検診の充実、発展を図ってきた。当協会は発足当初より事務局を引き受けている。

1. 協議会の開催

- (1) 第59回協議会 平成17年7月15日(金)
(2) 第60回協議会 平成18年1月20日(金)

2. 幹事会の開催

- (1) 第75回幹事会 平成17年6月24日(金)
(2) 第76回幹事会 平成17年7月12日(火)
(3) 第77回幹事会 平成17年11月18日(木)

3. 研修会

日 時：平成18年 1月20日(金)
テーマ：「新・胃X線撮影法の精度管理と評価について」
講 師 早期胃癌検診協会中央診療所
馬場 保昌先生

4. 技術部会

日 時：平成17年6月3日(金)
日 時：平成17年8月6日(金)
日 時：平成17年9月30日(金)
日 時：平成17年12月9日(金)

5. 講習会（がん検診X線撮影従事者講習）

日 時：平成17年3月22日(水)
主 催 神奈川県 ＊共催機関として協力

神奈川県消化器集団検診機関 一次検診連絡協議会名簿

横浜市立市民病院がん検診センター	所 長	今村 清子
川崎市がん検診センター	所 長	川原 英之
(財) 逗葉地域医療センター	施設長	田中 昭平
(医) 松英会	理事長	寺門 運雄
(財) 京浜保健衛生協会	理事長	矢作 淳
(医) 倉田病院健康管理室	院 長	倉田 康久
神奈川県厚生農業協同組合連合会	代表理事長	廣瀬 康彦
(財) 神奈川県労働衛生福祉協会	会 長	角田 昭夫
(財) 結核予防会神奈川県支部	専務理事	磯部 仁美
(財) 神奈川県予防医学協会	理事長	土屋 尚
厚木市立病院	病院長	岡部 武史
(医) 社団相和会産業健診事業部	理事長	土屋 章
(医) 藤順会藤沢総合健診センター	理事長	石井 敏之

相談機関

神奈川県保健福祉部健康増進課	課 長	猿田 克年
神奈川県医師会	理 事	石井 出
神奈川県医師会	理 事	長倉 靖彦

平成18年8月1日現在
(事務局・熊沢 英明)

神奈川県消化器内視鏡技師研究会

本研究会は、県下の消化器内視鏡技師を養成し、その技術の向上を図るとともに、関係者相互の親睦を図る目的で設立され活動を行っている。

今年度は、4月に東海大学医学部附属病院消化器内科の白井 孝之先生を世話人として、下記のように行われた。

第25回神奈川県消化器内視鏡技師研究会

日 時 平成17年4月24日(日)
会 場 (財) 横浜市教育会館
技師世話人 東海大学附属病院
内視鏡室 武藤 美枝子
内 容

消化器内視鏡機器取り扱い講習会

一般演題 5題

特別講演 「早期癌の治療における

内視鏡技師の役割とその理想像」

パネルディスカッション

「内視鏡検査処置後の患者管理」

入場者 545名

年々増加する参加者のために今回より会場を移し、内視鏡技師資格更新のためのカリキュラムである「機器取り扱い講習会」の実施、更に神奈川県技師会としては初めて「機器展示」を行なうなど研究会をより充実させる内容で実施した。

又、特別講演では東海大学 消化器外科 幕内博康教授が楽しく、分かり易い講演をしてくださり会場内は大いに盛り上がった。

顧 問

(五十音順)

青木 誠孝	青木医院
小泉 博義	藤沢湘南台病院
比企 能樹	北里大学病院名誉教授
藤田 力也	昭和大学藤が丘病院名誉教授
三輪 剛	東海大学医学部病院名誉教授
山川 達郎	帝京大学医学部附属溝口病院外科

役 員

青地 広美	横浜市立大学附属病院
片野早江子	聖マリアンナ医科大学病院
上條のり子	昭和大学藤が丘病院
木下千万里	淵野辺総合病院
星野 朱美	横須賀共済病院
佐藤 和夫	神奈川県労働衛生福祉協会
佐伯 美奈	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
菅原ゆかり	松島クリニック
瀬戸 道雄	青木医院
谷合 幸乃	横浜市衛生局
納所けい子	神奈川県予防医学協会
花木由香里	東海大学病院
藤井あずさ	丹羽病院
藤田 賢一	帝京大学医学部附属溝口病院
藤森 弘樹	昭和大学藤が丘病院
松橋 妙子	国際親善総合病院
三浦 美保	北里大学東病院

(事務局・納所 けい子)

横浜市乳がん検診協議会

横浜市の乳がん集団検診は、昭和55年11月より開始された。

本会は検診体制の整備、改善などの精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営をはかるため、専門的立場から調査、審議を行うことを目的として昭和56年7月18日に発足した。当協会は発足当初から、事務局を担当している。

尚、横浜市の乳がん集団検診は平成16年度末で休止となり17年度の検診は実施されていない。平成17年度の本会の活動は以下のとおり。

協議会（平成18年3月22日）

（1）16年度検診実施状況報告

（2）マンモグラフィ併用乳がん検診実施状況報告

その他

「平成16年度横浜市乳癌集団検診報告書」発行

横浜市乳がん検診協議会名簿（平成16年度）

会長	土屋 周二	横浜市立大学医学部名誉教授
幹事	真田 裕	昭和大学藤が丘病院外科教授
幹事	高梨 吉則	横浜市立大学医学部外科学 第一講座教授
幹事	嶋田 紘	横浜市立大学医学部外科学 第二講座教授
幹事	福田 護	聖マリアンナ医科大学 乳腺内分泌外科教授
幹事	須田 嵩	済生会横浜市南部病院副院長
幹事	高岡 幹夫	横浜市衛生局保健部長
幹事	有田 英二	神奈川県予防医学協会中央診療所部長
委員	利野 靖	横浜市立大学医学部外科学 第一講座講師
委員	石川 孝	横浜市立大学附属市民 総合医療センター総合外科講師
委員	蔵並 勝	北里大学病院外科講師
委員	鬼頭 文彦	横浜市民病院外科部長
委員	山本 裕司	横浜市立港湾病院副院長
委員	清水 哲	横浜南共済病院外科部長
委員	佐藤 博文	横浜栄共済病院外科部長
委員	大井田尚継	社会保険横浜中央病院外科部長
委員	高橋 利通	横浜掖済会病院外科部長
委員	竹村 正伸	横浜勤労者福祉協会 汐田総合病院外科部長
委員	石川 廣記	神奈川県警友会けいゆう病院外科部長
委員	上妻 達也	横浜船員保険病院外科部長
委員	山中 研	横浜赤十字病院外科部長
委員	土井 卓子	独立行政法人国立病院 機構横浜医療センター外科医長
委員	田村 功	藤沢湘南台病院外科
委員	桜井 修	横浜旭中央総合病院外科
委員	田畑 和夫	横浜市衛生局保健政策課 事業推進担当課長
委員	土屋 尚	神奈川県予防医学協会理事長 (事務局・栗原博)

横浜市マンモグラフィ判定委員会

厚生労働省のがん検診の指針に則り、横浜市は13年10月よりマンモグラフィ装置のある市内の45医療機関（平成18年4月現在50機関）を対象にマンモグラフィ併用検診を開始した。

17年6月までは、対象者を50歳以上の偶数年齢者とし上記医療機関では視触診とマンモグラフィを同時実施とし、装置のない医療機関と集団検診は視触診のみを実施し装置のある医療機関でのマンモグラフィ撮影を行うというシステムであった。

17年7月からは、対象を40歳以上に拡大し、40歳から49歳の隔年対象者には2方向撮影、50歳以上の隔年対象者には1方向撮影にて実施することになった。

さらに、従来はマンモグラフィ実施医療機関でフィルム1次読影を行い、週1回の総合判定会において、学会認定医師による2重読影および総合判定を行い受診者への結果通知を行っていたが、17年7月からは総合判定は視触診を実施した医療機関で行い、判定会は2重読影のみを行うこととなった。これに伴い名称から「総合」をはずした。ただし、その運営の事務局は引き続き当協会が担当している。

対象者の拡大に伴い、判定会も週2回となった。

判定会には撮影に従事する放射線技師も参加し、医師、技師による合同判定会として運営されている。更に検診に参加している医療機関の医師、技師にも公開され、検診レベルの向上に努めている。

判定会開催（17年4月～18年3月）80回

検討会開催 第1回（17年6月24日）

- ・7月よりの判定委員会運用について
 - ・フィルムリーディングの実務と症例検討
- 第2回（18年1月6日）
- ・学会発表報告
 - ・検診（判定）状況報告
 - ・その他（帳票記入の注意等）
 - ・症例検討

判定委員会委員長

聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌教授 福田護

副委員長 八十島クリニック 八十島唯一

判定委員 35名（18年6月現在）

（事務局・栗原博）

神奈川県乳がん集団検診協力医療 機関連絡会

県域の乳がん集団検診は昭和52年度から開始された。53年度以降は県が実施主体となっており、「神奈川県乳がん集団検診協議会」の技術指導のもとに協会が委託を受け実施した。

その後昭和60年度に乳がん検診が老人保健法に加わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、当協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会（現会長＝福田護・聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科教授）」が新たに発足し、検診の実務が遂行されている。

同連絡会は「県生活習慣病検診管理指導協議会乳がん部会（部会長＝福田護・同上、事務局＝県保健福祉部）」の指導のもと検診精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営を図るため設置されている。

乳がん集団検診協力医療機関連絡会

（敬称略：順不同・平成18年7月1日現在）

会長・聖マリアンナ医科大学病院 福田 護
（乳腺・内分泌外科 教授）

医療機関名	代表医師名
横浜市立大学医学部（第一外科）	利野 靖
横浜市立大学医学部（第二外科）	石川 孝
横浜船員保険病院	上妻 達也
昭和大学藤が丘病院	真田 裕
横浜南共済病院	松川 博史
日本医科大学付属第二病院	山下 浩二
聖マリアンナ医科大学病院	緒方 晴樹
横須賀共済病院	細井 英雄
藤沢市民病院	仲野 明
藤沢湘南台病院	田村 功
茅ヶ崎市立病院	小林 一博
北里大学病院	蔵並 勝
国立相模原病院	秋山 憲義
平塚共済病院	片山 清文
小田原市立病院	小山 隆史
山近記念総合病院	久保田 光博
西湘病院	原 俊介
秦野赤十字病院	鈴木 弘治
東海大学病院	徳田 裕
三浦市立病院	小澤 幸弘
大和市立病院	竹下 利夫
東海大学大磯病院	中崎 久雄
伊勢原協同病院	篠田 政幸
平塚市民病院	金井 歳雄
熱海病院	岩崎 博幸
海老名総合病院	内山喜一郎
津久井赤十字病院	荒井 義孝
東芝林間病院	竹中 晴幸
相模台病院	佐藤 茂
横浜旭中央病院	桜井 修
横浜えき済会病院	高橋 利道
横浜市南部病院	池 秀之

（事務局・熊沢英明）

神奈川乳房画像研究会 神奈川乳房超音波画像研究会

本研究会も平成10年12月に発足し、6年目を迎える。マンモグラフィ・乳房超音波検査・乳房画像診断・病理診断に携る県下の放射線技師・医師をはじめ、その検査を受ける立場の一般の方に至るまでを対象とし、早期乳がんを発見するため、画像診断力、精度管理の知識向上を目指し普及活動を行なっている。また、平成16年3月に発足した神奈川乳房超音波画像研究会も2年目に入り益々、広い範囲で活動を推進している。世話人代表 萩原 明

平成17年度 神奈川乳房画像研究会

神奈川乳房超音波画像研究会 活動状況

《第25回研究会》《第2回超音波研究会》

平成17年7月23日（土） 参加人数235名

1. 「フィルムリーディング」

マンモグラフィ読影…静岡県立がんセンター

画像診断科 秋田 富二代

エコーグラム読影…聖マリアンナ医科大学病院超音波センター 桜井 正児

病理診断…埼玉県立がんセンター 病理部 部長 黒住 昌史

2. 「フィルム評価」

神奈川乳房画像研究会世話人 神奈川乳房超音波画像研究会世話人

3. 「乳房超音波検診の目指すもの…」

ちば県民保健予防財団がん検診センター

橋本 秀行

《第26回研究会》《第3回超音波研究会》

平成17年11月26日（土） 参加人数 189名

1. 特別講演

「乳腺画像診断における超音波の役割」

がん相談センター 所長 松江 寛人

2. 「臨床画像評価」

神奈川乳房画像研究会世話人

神奈川乳房超音波画像研究会世話人会

3. 「フィルムリーディング」

マンモグラフィ読影…船橋市立医療センター

放射線科 石井 悟

エコーグラム読影…東海大学医学部附属病院

臨床検査科 小柳 紀子

病理診断…埼玉県立がんセンター 病理部 部長 黒住 昌史

《第27回研究会》《第4回超音波研究会》

平成18年3月25日（土） 参加人数 209名

1. 教育講演

「乳房総合画像診断－多様化するModalityをどう使いこなすか」

聖路加国際病院 放射線科医長 角田 博子

2. 「臨床画像評価」

神奈川乳房画像研究会世話人

神奈川乳房超音波画像研究会世話人会

3. 特別講演

「今後の乳腺超音波検診－現状をふまえて－」

筑波大学大学院人間総合科学研究科臨床医学系機能制御専攻

機能形態回復医学分野筑波大学付属病院乳腺甲状腺内分泌科 植野 映

（事務局・見本 喜久子）

神奈川県健康管理機関協議会

本協議会は、昭和56年に神奈川労働基準局（当時）労働衛生課の指導の下で、18機関が参加して自主的に発足しました。

平成17年度末の会員機関は17機関で、労働衛生行政へも積極的に協力していくことを目的に、健康管理の質的向上と経済的負担を軽減する具体的な方策の検討や、医療・検査技術の情報提供・加盟各機関の運営面をも含んだ情報交換と問題点の協議を年2回開催しております。

第1回協議会（平成17年8月29日）

- 議題1 神奈川労働局からの連絡事項
神奈川労働局 高宮 政行 主任労働衛生専門官
- 2 講演『労働安全衛生法の改正』
講師 産業医科大学 産業生態科学研究所 所長 東 敏昭 先生
- 3 情報提供『がんへの挑戦・10か年戦略』
講師 神奈川県保健福祉部健康推進課 課長代理 井出 康夫 様
- 4 講演『アスベストによる健康障害』
講師 神奈川県立循環器呼吸器センター 呼吸器科 高橋 宏 先生

第2回協議会（平成18年3月27日）

- 議題1 神奈川労働局からの連絡事項
神奈川労働局 花形 修身 労働衛生課長
- 2 講演『医療制度改革の概要について』
講師 神奈川県保健福祉部医療課 主幹 矢吹 行夫 様
- 3 各機関からの情報交換
・個人情報保護法への取り組み
・特殊健診の個人結果通知の対応

機関名 ●代表幹事 ▲幹事

- (財)神奈川県予防医学協会
- ▲(財)神奈川県労働衛生福祉協会
- ▲(財)ヘルス・サイエンス・センター
- (財)京浜保健衛生協会
- ▲(財)結核予防会 神奈川県支部
- (財)全日本労働福祉協会
- (財)日本予防医学協会 東日本統括センター
- (財)労働衛生協会
- 独立行政法人 労働者健康福祉機構 関東労働病院 健康管理センター
- (財)労働科学研究所
- (医)社団 日健会 日健クリニック
- (医)社団 相和会
- (社)衛生文化協会 城西病院
- 独立行政法人 労働者健康福祉機構 海外勤務健康管理センター
- (財)逗葉地域医療センター
- 神奈川県厚生農業協同組合連合会 健康管理センター

※平成18年3月31日現在

(事務局・根本 克幸)

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、神奈川県下で活動している中央労働災害防止協会認定（名簿登載機関）の健康保持増進サービス機関で組織され、神奈川労働局の指導の下に発足し自主的に運営されている。その目的としては、事業主の責務である労働者への健康づくり活動をより質の高いものにすべく、技術の向上、運営の適正化またサービスを提供するための協議する場とすることである。

労働衛生を取巻く要因として、団塊世代の退職者問題、労働人口の高齢化などにより、職場における健康支援対策がクローズアップされている。

特にメタボリック症候群に代表される生活習慣病対策が急速に求められており、単に健康診断を実施するに留まらず、保健指導までの一貫した包括システムの重要性がますます高まってくる。

企業外におけるアウトソーシングの請け皿としての労働者健康保持増進サービス機関・指導機関の役割は今後とも高まってくると思われ、更なる質の高いサービスの提供を目指す。

〈平成18年度加入機関〉

- (財)神奈川県労働衛生福祉協会
- (社福)日本医療伝道会 衣笠病院
- (医社)善仁会 横浜東口ヘルスチェッククリニック
- (医財)報徳会 西湘病院
- (医社)こうかん会
- (財)神奈川県予防医学協会

(事務局・北見 護)

肺疾患検討会

本年度は5月17日の第115回より始まった。1982年（昭和56年）に呼吸器系の疾患を内科・外科を問わずまた病理医、放射線医も含めて広く学際的に検討、勉強しようということからスタートした。

患者にとっては科の分野による区別などないが医師の側にとっては他の科ではどう考えどう治療、処置をするのかを知ることは必要である。しかし、自らの専門の枠を超えての討議に身を置くことはそう易しいことではない。とはいえ、目的は肺・呼吸器に関する疾患について識ることである。従って他分野といっても幅広い好奇心と向上心によって克服することは臨床医学としてまた学問としての一層の進歩を望むものにとっては極めて有意義な検討会である。この20年間参加する医師の顔ぶれが徐々に変化－若返っている。一小研究会としては20年というのは極めて永い。筆者もいくつかの同様の集まりを知っているが数年を経ずして消滅していった。改めて本会に参加して下さる、また過去から現在迄支えて下さる会員諸賢に感謝する。

第115回（平成17年5月17日）

公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター 総合外科 乾教授。縦隔腫瘍の各型

- 1) 巨大な気管原性腫瘍、
- 2) Castleman腫瘍、
- 3) 右側腹部痛の悪性リンパ腫、
- 4) Seminoma、
- 5) 膈体部腫瘍を合併したMEN I型。

第116回（平成17年9月27日）

国立病院機構横浜医療センター 呼吸器外科 坂本先生他、1) 多発性陰影を呈したアミロイドーシス、2) 肝内リンパ節腫瘍を呈したザルコイドーシス、3) 糖尿病の免疫不全に伴う多発性膿瘍、4) 骨のOncocytomaを伴ったMMPH。

第117回（平成17年11月29日）

公立大学法人横浜市立大学附属病院 第一外科 荒井先生他

- 1) 両側又は同側に複数の腫瘤影を認めた病例への対処法…4例呈示、
- 2) 術後観察中に発見した腫瘤例、
- 3) 開胸しても不明であり術後消失した腫瘤の1例、
- 4) 若年者の肺嚢胞に合併したアスペルギルス症の手術例、
- 5) 胸腺原発の小細胞癌の1例。

第118回（平成18年2月14日）

神奈川県立がんセンター 呼吸器外科 中山、伊藤先生 肺癌術後に起った「間質性肺炎」と思われた6例の検討…ステロイド投与の問題点など。

（事務局・井出 研）

神奈川微小肺がん研究会

本会は、ヘリカルCTによる肺がん検診に携っている人達の技術向上と交流の場として平成12年3月に発足した。

ヘリカルCTは、肺がん早期発見の有効な手段として定着し、多くの施設で導入されてきており、今日では高性能のマルチヘリカルへと変わってきている。

このようななか、本会活動の一層の充実が望まれるところであるが、ヘリカルCTの急速な普及に伴って、今日では各地に研究会が設置されてきている。このため、本会ではこれまで開催してきた研究集会を16年度で一旦休止し、現在、新たな活動の展開を期して、今後の運営方法・活動内容について鋭意検討を行っているところである。

役員

顧問	金子 昌弘	国立がんセンター
代表	田中 俊彦	神奈川県予防医学協会
幹事	井出 研	神奈川県予防医学協会
	小田切茂樹	県立循環器呼吸器病センター
	櫛橋 民生	横浜市北部病院（昭和大学）
	駒瀬 裕子	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
	佐藤 雅史	日本医科大学付属第二病院 放射線科
	庄司 晃	横浜市立大学付属病院（福浦） 第一内科
	中島 康雄	聖マリアンナ医科大学
	萩原 明	神奈川県予防医学協会
	松崎 稔	神奈川県予防医学協会
	三浦溥太郎	横須賀共済病院
	宮沢 直人	平塚共済病院外科呼吸器外科
	山田 耕三	県立がんセンター （事務局・香西 宏信）

日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する(社)日本作業環境測定協会会員により設立。現在、支部の会員は、自社5、機関28、指定1、委託2の計36会員である。

神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の親睦を目的として、種々の事業を展開してきた。

平成17年度は、作業環境測定推進大会を始めとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

会 議

- ①総会1回 ②機関全体集会1回 ③理事会3回
④技術専門委員会7回

事 業

I. 第17回作業環境測定推進大会 (17.9.14)

I. 特別講演

「最近の労働衛生行政の動向」

神奈川労働局労働衛生課長 花形 修身

II. シンポジウム

「作業環境測定結果をいかに活用するか」

(1)測定士として

(財)神奈川県労働衛生福祉協会 竹平 知義

(2)衛生管理者として

新キャタピラー三菱(株) 宮島 崇

(3)労働衛生コンサルタントとして

(財)神奈川県予防医学協会 芦田 敏文

II. 技術研修会

(1)第1回技術研修会 (17.5.11)

特別研修会～支部設立25周年にあたって～

(社)日本作業環境測定協会副会長 高田 昂

(2)第2回技術研修会 (18.1.18)

施設見学会：新キャタピラー三菱(株)相模事業所

(3)第3回技術研修会 (18.3.20)

I. 最近の労働衛生の動向について

神奈川労働局労働衛生専門官 古屋 強

II. 石綿に関する測定上の諸問題

(1)分散染色法

(株)環境管理センター 朝来野国彦

(2)X線回折法 (財)山梨労働衛生センター

望月 速人

(3)石綿除去工事 関東菱重興産(株)相模原支所

竹内猪佐夫

III. 石綿問題の動向と石綿計測に関する課題

東洋大学経済学部教授 神山 宣彦

III. 講習会

(1)作業環境測定士試験科目一部免除講習会

(17.5.24)

役員・技術専門委員

役 員	技 術 専 門 委 員
支 部 長 田中 康友	岸 康博 (日産自動車)
副支部長 蒔田 道則	竹平 知義 (労働衛生福祉協会)
〃 井出 正	井出 正 (ゼオン分析センター)
理 事 井澤 方宏	芦田 敏文 (予防医学協会)
〃 松井英三郎	竹内猪佐夫 (関東菱重興産)
〃 大角 武志	灰塚 正隆 (オオスミ)
〃 平井 廣	(日本ビクター)
監 事 望月 明彦	望月 速人 (山梨労働センター)
〃 池田 善郎	星野 健二 (NKK)
行 政 花形 修身	中村 宏彰 (神奈川労働局)
	(事務局・芦田敏文)

神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足し29年目。各地区医師会・行政・大学医学部・病院・学校・検診機関が相互に連携し地道な腎疾患対策を行い児童・生徒の健康に寄与すべく事業を展開している

I 調査研究事業

1. 小田原市における腎疾患管理で卒業等により、管理解除となった者に対する追跡調査のまとめ。

責任者 藤原 芳人(本会幹事・横浜市医師会)

2. 調査研究

- ①各地区の判定委員会の現状と問題点の把握

平成17年10月13日(土)

単年度調査研究

- ②学校検尿が始まって30年。学校検尿陽性者が今透析センターに通っているアンケート調査

II 総会および研究会

平成17年9月10日(土)

会 場 神奈川県予防医学協会

テーマ 「慢性疾患を持った子供と

親の心のケア」

講 師 聖マリアンナ医科大学

小児科心理相談員 福永賀哉子 先生

III 医師部会研究会

1. 第38回研究会

7月23日(土)

会 場 神奈川県予防医学協会

テーマ

1. 「個人情報保護法と学校検尿」

講師 財団法人 神奈川県予防医学協会

企画調整部長 小池慎也 先生

2. 「尿検査標準化についてのJCCLSの取り組み」

講師 財団法人 神奈川県予防医学協会

理事 青木 芳和 先生

2. 第39回研究会

12月10日(土)

会 場 神奈川県予防医学協会

テーマ

1. 「学校検尿が始まって30年。学校検尿陽性者が今透析センターに通っているアンケート調査結果報告」

講師 北里大学医学部小児科客員教授

河西 紀昭 先生

2. 「沈渣白血数 判定基準変更による

三次精検の変化」

講師 財団法人 神奈川県予防医学協会

専門委員 竹中 道子 先生

IV 知識普及活動

1. 研究会機関誌「腎」発刊25・26合併号(2,400部)

2. 腎臓手帳500冊販売

3. ホームページ(URL <http://www.shouni-jin.jp/>)

会長 小坂橋 靖 聖マリアンナ医科大学 小児科

(平成18年9月1日現在)

(事務局・熊沢 英明)

禁煙・分煙活動を推進する神奈川会議

平成11年11月5日設立発足した本会は着実な活動を展開し、県内における禁煙・分煙に関する活動の指導的役割を果たしてきている。

協会は設立時より本会の事務局を担当している。

15年施行の「健康増進法」や、神奈川県においても、「かながわ健康プラン21」に続いて、17年度より「がんへの挑戦・10ヵ年戦略」が策定され、タバコ対策が重点課題とされている。

17年度活動内容

I 会議

- (1) 理事会 6月23日、11月26日
- (2) 総会 6月23日

II 事業

1. シンポジウム 6月23日
2. 禁煙・防煙講演会、禁煙セミナー
 - (1) 横浜市港南区医療講演会 6月25日
 - (2) クリーンエア国民集会 9月4日
 - (3) 横浜市港南区講演会 11月16日
 - (4) 「肺がんCT検診早期肺がんに対する知識」市民公開シンポジウム 12月10日
 - (5) 「たばこ・アスベストと健康影響を考える」講演会 12月20日
 - (6) 横浜市港南区保健活動推進正副会長研修会 1月30日
 - (7) 第373回日本産婦人科学会神奈川地方部会「教育講演」 3月4日
3. 禁煙・防煙講演会の講師派遣、参加
 - (1) 学校関係 74回 11545人
 - (2) 地域関係 26回 1542人
 - (3) 産業関係 18回 748人
 - (4) その他 25回 1185人
4. イベントへキャンペーンへの参加
 - (1) たばこ規制枠組条約（FCTC）推進国民会議発足式 6月5日
 - (2) すこやかかながわ万人健康ウォーク「健康生活展」11月12日
 - (3) 上大岡駅前禁煙キャンペーン 3月5日
5. 関連会議への協力・参加 4回
6. 関連機関への要望書提出
 - (1) 「川崎市路上喫煙の防止に関する条例」への意見具申 7月31日
 - (2) 中田宏横浜市長とのカレーランチミーティング 11月21日
7. マスメディアへの協力
8. メーリングリスト（ML）の運営・管理
9. ホームページの開設

役員（理事会）の構成 (18年5月28日現在)

会長 中山 脩郎（神奈川県内科医学会会長）
 副会長 渡辺古志郎（横浜市民病院副病院長）
 〃 西野 一紘（神奈川県歯科医師会副会長）
 〃 大野 秀利（神奈川県薬剤師会常務理事）
 会計、理事、監事 25名（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、マスコミ、産業、教育等）

（事務局・栗原博）

神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら、学校保健関係者が自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来、毎月1回の月例会、夏期講習会を実施している。

1. 月例会

日時、テーマ、講師、参加者数

① 4月16日「人間への現象学的アプローチ」鈴木乙史・聖心女子大学文学部教授・18人

② 5月21日「体験的対話教育と自己暗示作用」大草正信・大草心理臨床・教育相談室主宰・17人③ 6月18日「今、なぜ特別支援教育の重要性が叫ばれるのか」金子肇・星槎中学校校長・11人④ 7月9日「子どもを伸ばすコミュニケーション」～子育てコーチングPart1 谷口貴彦・コーチング・セブンピース代表・13人⑤ 9月17日「子どもを伸ばすコミュニケーション」～子育てコーチングPart2～谷口貴彦・コーチング・セブンピース代表・11人⑥ 10月15日「はがきコラージュの実際」藤掛明・聖学院大学総合研究所・18人⑦ 11月19日「あなたを駆り立てるもの（ドライバー）は何でしょう」江花昭一・横浜労災病院心療内科部長・23人⑧ 12月10日「子どもの危険回避スイッチ・オン」横矢真理・子どもの危険回避研究所所長・15人⑨ 1月14日「交流分析の応用的視点から なぜ2つの椅子を使うのか」杉田峰康・福岡県立大学名誉教授・18人⑩ 2月18日「情報化社会と子どものこころ」牟田武生、NPO法人教育研究所理事長・11人⑪ 3月29日施設見学会・「税関の現状を知る」横浜税関・12人

2. 夏期講習会

日時：平成17年8月17日～19日

テーマ：「自己理解と他者理解の心とこころの響きを求めて」

① 17日「少年非行と少年の薬物乱用」

新倉アキ子・神奈川県警本部少年育成課専任主幹「子どもの心の発達とうつ病」金井剛・横浜市中心児童相談所医師② 18日「保健室で活用できる描画テスト」杉浦京子・日本医科大学心理学助教授

③ 19日「ブリーフセラピー入門」長谷川啓三・東北大学教育学部教授 参加者延べ450人

会員状況

小学校26名、中学校16名、高校・短大20名、その他18名。計80名。

役員（順不同、敬称略、平成17年3月31日現在）

名誉会長 高田 和子

会長 山口 京子（川崎市教育委員会・健康相談室）

副会長 藤沢 恵子（横浜市常盤台小学校）

幹事 佐藤まゆみ（神奈川県立川和高校）

佐藤千恵子（川崎市立南河原小学校）

後藤 禮子（川崎市立久本小学校）

原 久子（川崎市立戸手小学校）

浅井 恵子（私立横浜中学校）

鈴木 晴美（横浜市立相武山小学校）

金子 雅代（横浜市立白幡小学校）

坂井 悦子（横浜市立間門小学校）

監事 中川 優子（藤沢市立片瀬中学校）

工平 きん（国大附属横浜小学校）

（事務局・船崎隆文）